2023 年度　自己評価報告書

評価対象期間　　自：2023 年４月１日

至：2024 年３月３１日

評価基準日　　2024 年４月１日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

日本語科

評価項目の達成および取組状況

1　教育

2　施設・設備

3　学生サービス

4　教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：副校長・日本語科主任・事務主任

教育分野　日本語科

1　教　　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当科は、将来の医療（主に介護）人材を育成するため、社会の一員として自立・自律できる人間を涵養することを教育目標に掲げている。上記目標の下、日本での生活や資格外活動にマッチした、真の意味での「コミュニケーション能力」の向上を目指したカリキュラムデザインを充実・発展させてきた。	教室でのアウトプット活動や教室外での社会活動等を重視することにより、コース目標である「コミュニケーション能力」の習得を目指した授業が展開できていると考える。アウトプットをする機会が多いことで、日本語能力の定着もしやすくなっている。 問題点としては、２カ国からの留学生しかいないので、寮生活に戻った際に、主に母語を使用する様子が見られることである。	[5] 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分	コース目標達成を見据えたカリキュラムおよびシラバス内容は現状では問題はないと考える。 学生同士の日本語を使用してコミュニケーションを増やすために、宿題などでグループワークを与えたり、教室外でもベトナムとインドネシアの学生が接点を持つ機会を設ける必要があると考える、
2．カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	当科修了後の学生の進路は、介護福祉士養成のための専門学校進学または特定技能（介護）による就職に絞られてきている。これらの学生達のニーズに即した日本語能力の獲得を目指した教育を行うべく、カリキュラムに「一般常識」「介護の日本語」「介護職員による出前講座」などを取り入れるなどの工夫・挑戦を続けている。	「介護の日本語」では、高齢者体験や介護現場で使用する基本的な語彙・漢字・声かけ表現などを学習項目に取り入れている。学生から「非常に役に立つ」というプラスの意見を多数もらった。 また、「介護職員による出前講座」では、「介護」という専門分野を客観的・多角的に認識する機会を学生に与え、介護福祉士として社会的・職業的自立を目指すためのキャリア教育としての役割を果たしている。	[5] 4 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分	学生の進路ニーズを正確に把握するとともに、「異文化で働く」ということ、社会の一員として身につけておくべきこと等について具体的に言語化し、普段から繰り返し伝え導いていくことが必要であると考える。 アルバイト先や就職先の外国人職員の担当者の方たちと意見交換を行い、現場で求められている能力の聞き取りをし、授業に反映させていきたい。
3．授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況がある程度確保できている。（1 クラス 13 名まで）	2 年コースの学生においては、学年進行や時間配分について特に問題はない。 一方、1 年半コースの学生は学習時間及び進路決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成という点において課題が多いと考えられる。	5 [4] 3 2 1 十分 ← ふつう → 不十分	１年半コース生については、入学時点である程度の日本語運用能力を保持していることが望ましい。学生募集時から明確なキャリアパスを学生に周知しておくこと、現地の日本語教師と能力レベルの情報共有を行うなどして、入国時に一定レベル以上の日本語能力を身につけてもらう。留学の手続きの前にその段階での日本語能力を測るテストを行っていきたい。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
4．シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	学生の状況やニーズに応じて、常に見直しをしながらコース毎のシラバスを作成している。 学期ごとに非常勤教員も含めた講師会を行い、授業内容に関して意見交換をし、シラバスの見直しや修正が必要なことがあれば、教員間で精査し変更している。	学生のニーズや状況の変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。 今年度は一般常識(日本文化、マナー、自己分析)やスピーチ&ディスカッションの授業を取り入れた。一般常識では、今後も日本で生活していく上で必要となる、マナーや日本文化の理解に取り組んだ。スピーチでは、自分の意見や考えをまとめて、相手に伝わりやすい伝達方法を学習した。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	講師会で、各教員間でシラバスの内容についての理解を深めている。今後認定日本語教育機関となるべく、文化庁が明示している「日本語教育の参照枠」に照らし合わせたシラバス作成が必要になる。
5．カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	日々蓄積され全教員に公開される授業報告や、資格外活動先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進度・教材・クラス編成等についての見直しを行っている。 また学期ごとに学生アンケートを実施。授業への満足度をはかり、学生が取り組みたい日本語能力の技能等の聞き取りを行い、学生からの意見をカリキュラムにも反映するようにしている。	日本語教育業界全体で、コミュニケーション重視の教育法が取り上げられており、当校のカリキュラムはそれに沿ったカリキュラムで取り組めている。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	今後期待される日本語教育の形を把握し、当校の学生に合った学習内容をカリキュラムに取り入れていく必要がある。次年度以降大きく変化する日本語教育業界の変化にも柔軟に対応し、カリキュラムの見直しを行っていく。
6．テキストや教材をどのような基準で採用していますか	コース目標を念頭に、言語運用能力を重視した初級教材を採用している。また、介護福祉士養成校への進学や特定技能による就職に必要な日本語能力の試験対策教材を学生のレベルやニーズに応じて採用している。	言語運用能力を高める初級用教材の採用により、単なる文型の学習にとどまらず「学習した文型が生活の中でどのように使用できるか」に焦点が当たり、教室活動の質が大きく変わった。それにともない学生の発話量も増え、日本語運用能力を重視したアウトプット活動中心の授業が展開できている。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	日本語教育の方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に日本語教育に関する新しい情報収集のためにアンテナを張り、教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
７．目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	基本的言語能力（「読解」、「文法」、「文字語彙」、「聴解」）の知識に加え、運用能力についても「会話」「作文」「介護の日本語」の試験を実施し、成績評価を行っている。	言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価を筆記試験と口頭試験によりバランスよく行おうとしている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現在は「平常点」として出席率、授業態度、日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させている。 今後の学生数の増加を視野に入れた信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。「日本語教育の参照枠」にも提示されているコミュニケーション能力をはかる評価方法の作成が必要となる。
８．学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	レベル別クラスによる日本語能力試験対策授業、グループワーク等によるアウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開してきた。また必要に応じて、補助教材や復習プリントの配布を行った。	学生の理解度は個人により、かなりの差が出てきている。現在の授業運営は学生の能力や理解度に応じたクラス設定がある程度可能となっている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。学習システムなどを利用し、学生が自律的に学習を進めていけるような環境整備が課題となる。
９．学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	学力不足が認められる学生については、課題を与えたり、自習プリントを配布したり、クラスでの学習に追いつく補助としている。小テストや課ごとのテストでの点数が大きく下回る学生に関しては、テスト内容の復習を課題として与えている。	授業内外でのフォロー体制や個々の学生とのやり取りについては、メッセージングアプリ（Slack）を利用しきめ細かなサポートを行っている。課題の進捗状態の確認、質疑応答など、学生の要望に応じている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学力不足の学生への迅速な対応が肝要であることは言うまでもないが、社会的・職業的自立までのトータルな日本語学習の一時期を担っているという長期的な観点からのサポートも必要である。
10．マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる習慣（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導をしたり、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。また、マナーに関する問題が発生した際にも、その都度全学生へ繰り返しマナーについて話をしている。	入学時のオリエンテーション、学期初めのオリエンテーション、またコース後半を中心とした授業内で、日本社会における基本マナー等についての理解を深める教育を行っている。 母国での文化や宗教間に関して、教職員の理解を示しつつ、日本社会で生活する上での必要なことを伝えている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	全ての事柄について短時間で伝えることは難しく、理解度にも個人差があるため、今後も教職員とアルバイト先職員が情報共有を密にし、一丸となり繰り返し忍耐強く指導を継続していく必要がある。（既に学校と職場の連携のための会議を定期的に実施している） また、母国の親御さんにも日本の文化やマナーを伝える必要がある。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
11．教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、得られた知見について学科内教員で共有している。	今年度は介護の日本語に関する研究発表を聴講したり、文化庁による日本語教育に関する研修に参加をした。	$\boxed{5}$ 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていきたい。学内での教員のスキルアップを目的とした勉強会の実施を検討中。
12．学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	学期ごとにアンケート（選択肢、自由記述による）を行い、授業や学校に関する学生の意見を集めている。また個別面談では、学習内容や授業、及び留学生活について聞き取り、教員間で共有し、学校運営に反映させようとしている。	授業全体及び科目毎の授業評価を行うことにより、コース全体のみならず担当教員に対する評価も把握できるようになっている。 学生との信頼関係＝授業評価になりがちで、授業内容に関しての評価を得られているか不確かなところがある。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことがある。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。一方で、教育目標については、ぶれることなく教員間で一貫性を持って学生に示していきたい。

2　施設・設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
１．教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室の数は十分である。 施設整備の点から、隣の部屋との仕切りのない部分があり筒抜けになっているので、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは十分である。 イスラムの学生のために祈祷室も設けている。 休憩時間に学生達が楽しめるよう、卓球・バドミントンなどの用具も揃えている。	5　4　$\boxed{3}$　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分	隣の部屋の間仕切りに関しては、現在設備担当者に確認中。学生数の増加に伴い、フリースペースの活用方法の工夫が必要となる。
２．図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室および書棚を設置し、多読教材をはじめとする書籍が閲覧できるようにしている。学生への貸し出しも行っており、日本語の本の読書の機会を促している。また自律学習用に日本語読解学習支援システムなども紹介している。	今年度若干の多読用教材の補充を行ったが、まだ書籍の点数が少ない。寄付などで頂いた書籍もあるが、古い書籍も多く、学生が興味を持ちにくいものもある。今後、多読に慣れるため、学生が興味のある幅広い分野の蔵書の充実が必要である。	5　4　$\boxed{3}$　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、第二言語として日本語を学ぶ学生が満足できる内容の蔵書を充実させていきたい。
３．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。		5　4　3　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分	
４．最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	プロジェクター等は利用しやすい環境にある。 学生のクラスワークなどのコミュニケーションツール確保のために Wi－Fi が設置されている。	効果的な授業活動を行うのに必要な PC の設備は整っている。 聴解学習の際にプロジェクターからの出力音声だと、音が割れて聞きにくいことがある。 今後円滑な授業の流れに支障をきたすことのないよう、スピーカー等を用いることも必要となる。	5　4　$\boxed{3}$　2　1 十　ふ　不 ←　つ　→　十 分　う　分	学習時間の短さを補うため、今後 LMS(Learning Management System) 等の利用による教室外学習や反転授業の可能性についても検討していきたい。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
5．ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	留学生全員に寮が安価な価格で提供されている。 講義棟に併設している寮(男女別)があり、通学に便利である。 寮内共有部において、掃除を人任せにしている学生が多く、学期途中で掃除当番制を取り入れた。教職員が、週に 1 回程度寮のチェックに行き、掃除の確認を行っている。	寮内の施設備品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	寮には日本人学生もいるため、学生寮での生活を日本での貴重な学びの場として捉えていきたい。 また、寮生同士が協力することで、今後必要となる協調性を身につけてもらう場となってほしい。
6．体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	グラウンドでは、サッカー、ジョギング、散歩、動物との触れ合いをする姿が見られる。 新入生との交流の場として、体育館を使用してスポーツ大会を開催した。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 $\boxed{4}$ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後、充実した学生生活を目的とした更なる有効活用を考えていく必要がある。

3　学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
１．クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	専任教員が担任業務を行い、成績等の管理、学生面談を行っている。担任１人にすべてを任せるのではなく、各教員が相互に他クラスの担任業務をサポートする体制が整えられている。 必要に応じて臨時の学生面談を行い、問題の早期解決に取り組んでいる。	定期的な面談以外にも、問題があればすぐに面談を置こうことで、問題の早期解決、対策ができている。必要であれば、母国の保護者にも参加してもらい、オンライン面談を行っている。	5 十分 ← [4] 3 ふつう → 2 1 不十分	現状は全教員が全学生の状況をある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われるので、学科会議の中で学生に関する情報共有を行っていく。
２．学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	通訳を介した母語による面談を随時行い、状況の把握を行っている。（通訳は事務職員・介護施設職員である卒業生が担当） また関連の医療施設にカウンセラー（日本人）がおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないためプライバシーが守られにくい上に、異文化理解の知識のある専門のカウンセラーがいないことが課題である。 また、ベトナム語通訳ができる事務職員はいるが、インドネシア語ができる職員は常駐していない。	5 十分 ← [4] 3 ふつう → 2 1 不十分	寮やアルバイトなど学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」や通訳スタッフの拡充が必要である。 当校卒業生が関連施設で就業しているので、スムーズに通訳ができる体制を整える必要がある。
３.教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブル、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内は季節に合わせた日本の年中行事にまつわる飾り物や学生の成果物などを設置し、温かみのある空間になるよう工夫している。	5 十分 ← [4] 3 ふつう → 2 1 不十分	将来的には未利用部分を整備し、留学生が地域の方々などと交流できるような空間づくりが望まれる。
４．食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	学生寮が隣接しているため、学生がロビー内で食事を取ることは少ない。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。 ロビー内に電子レンジや電気ケトルなども設置している。	全員が校内で食事をとることはあまり多くないが、休憩時間に温かいコーヒーやお茶を入れるなどして、学生達がほっとできる場を提供できている。	5 十分 ← [4] 3 ふつう → 2 1 不十分	食事場所については十分である。 売店については近所にスーパーやコンビニがある。
５．学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の支援制度として、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの、寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 十分 ← 4 [3] ふつう → 2 1 不十分	成績優秀者等への奨学金が更に充実していけば、学習動機の向上につながると考える。

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
６.その他	特になし			

４　教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

・今年度は留学生が学校祭や地域のイベントに積極的に参加し、教室外の人々とのつながりを持つ機会が増え、日本語学習への動機づけや日本人・日本文化理解への大きい一助となった。

今年度参加イベント一覧

〇七夕まつり(グリーンホール田原)：ステージ参加

〇田原フェス(北谷公園)：ボランティア参加、ステージ参加

〇朝のあいさつ運動(田原地域)

〇クリスマス・キャロル(グリーンホール田原)：ステージ参加

〇クリーン作戦(田原地域)

・日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験をはじめ各種行事をカリキュラムに取り入れている。今年度のお正月文化体験（着付け、書き初め、茶道体験）では、地域ボランティアの方々の全面的な協力をいただき、地域住民との交流を図る貴重な機会となった。

・教員は学生のアルバイト先である介護施設との連携に力を注いでいる。介護施設の日本人職員を対象に異文化理解講座を実施したり、日本語科の活動や学生の母国の文化等を紹介する「日本語通信」という発行物を全職員に配布したりすることにより、日本人側の異文化理解についての意識づけを図り、留学生と日本人職員をつなげる橋渡し的な役割を果たそうとしている。

・必要に応じて、希望者対象にオンラインで留学生の保護者との面談を実施している（通訳付）。母国の保護者に日本での生活の様子を詳しく知らせることで、家族に安心感と信頼感を持ってもらえるような取り組みを行っている。